

平成25年度 事業計画書

居宅介護支援事業所 大慈園

1. 《平成25年度法人ビジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

- ①法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、高齢者の人権を尊重する。
- ②介護保険に関する法令の趣旨に従い、公平中立な立場から決定可能な限り居宅においてその有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう、又、自己決定ができるように援助する。
- ③地域包括支援センターの受託法人の居宅介護支援事業所として、地域包括支援センターと連携し、地域に根ざした居宅介護支援事業所を目指す。

3. 《最終目標》

「豊かな在宅生活の実現」

- ・介護が必要な状態になっても住み慣れた自宅で最期まで過ごせるよう、様々な社会資源を活用し在宅生活をサポートしていく。

4. 《目標》

①介護支援専門員としての資質の向上

A) 介護保険制度の理解を深め、制度改正への迅速な対応を行う。

- ・行政機関主催の集団指導・研修会などには必ず参加し、事業所内で最新の情報を会議等で周知徹底を行う。
- ・WAMNET を活用し制度のQ&A を熟知する。
- ・ケアマネジャー連絡会等への参加により他事業所との情報交換に努め情報を得る。

B) ケアプランの質の向上

- ・ファイリングを事業所内で統一し、誰が見ても分かりやすいケースファイルを作成する。
- ・職員相互によるケアプランのチェックを実施し、事業所内でのプランニングの質を上げる。
- ・新規の施設や社会資源の情報をサービスごとに整理をし、ファイリングを行う事により情報を共有する。

C) 高齢社会への対応

- ・充足率90%を維持し、迅速な相談対応を行う。

②連携の強化

A) ケアマネージャー同士の連携の強化

- ・事業所内で週1回会議を行い、ケースについて一人が悩み考えるのではなく、事業所全体で問題の解決方法を探っていく。
- ・担当が不在でもきちんとした対応が行えるよう、記録を充実し、内容を分かりやすく整える。

B) 地域包括支援センターとの連携の強化

- ・対応困難な事例に関しては併設の地域包括支援センターにその都度相談し、連携をして解決していく。

C) サービス事業所との連携の強化

- ・デイサービス等のサービス事業所の行事に参加をし、利用者の情報共有に努める。
- ・利用者の入・退院時には病院の担当者との情報交換を密に行い医療サービスとの連携を図る。

③相談窓口としての立場の確立

A) 敷居が低く相談しやすい環境作り

- ・生活上の些細な事柄に対しても真摯に受け止め対応をする。
- ・特定事業所として24時間、365日電話対応可能な体制を併設の地域包括支援センターと協力して行う。

B) 不安が安心になる対応

- ・地域行事に積極的に参加をし、地域の方々と顔なじみの関係を構築する。
- ・施設への入所相談やターミナルケアへの対応等、介護保険請求に至らない事例においても真摯に対応し、相談者の不安を軽減していく。

5. <<職員構成>>

管理者	主任介護支援 専門員	介護支援専門員	認定 調査員
1名 (地域包括支援センター管理者兼務)	1名	3名 (内1名非常勤)	3名